

声 明

第二次世界大戦において日本基督教団は、国家の侵略戦争に協力しました。その過ちは神とアジアの友人に対してお詫びしても決して許されないものです。そのことを今一度自覚し、主のあわれみと隣人のゆるしを請い求めます。

「世の光」「地の塩」である教会は、戦争はもとより他国の紛争による海外派兵にも反対し続けなければなりません。しかし、集団的自衛権の解釈改憲や今国会の安全保障法制により、今後、他国において自衛官が戦闘によって戦死することになれば、靖国神社もしくはそれに類する所に祀られ、その死を国威発揚、戦勝祈願の為に利用される可能性があります。ひとりの死はその個人と家族関係者の悲しみです。国家がこの死を顕彰して利用し、新たな戦争を是認したり、勝利のための祈ることが2度と行われぬように求めます。

私たち日本基督教団大阪教区は、主イエスの愛の実践を重んじ、自由と平等と隣人への愛を大切にしている団体です。殺すことも、殺されることもない平和な世界を真に求める立場から、新たな戦死者を生み出し、再びその死を利用して戦争讃美するような「合祀」という事態が起こるならそれに反対し、決して自衛官が死ぬことも、また誰かを殺傷するような事も無い事を求め、今国会の安全保障法制の改悪に反対し、戦争反対の意を表明します。

2015年5月5日

第60回 日本基督教団大阪教区定期総会 参加者一同